

平成 21 年 8 月 6 日

高岡本社オフィスが「ニューオフィス奨励賞」受賞

中越パルプ工業株式会社

この度、経済産業省、日本商工会議所の後援を得て日本経済新聞社、社団法人ニューオフィス推進協議会の共催にて実施された第 22 回日経ニューオフィス賞におきまして、当社高岡本社オフィスが「地域ブロック別ニューオフィス奨励賞」を受賞いたしました。

今回、第 22 回目となる「日経ニューオフィス賞」は快適で機能的な「ニューオフィス」の普及・促進を図るため、模範となる先進的なオフィスを表彰する賞で、今年の応募総数は 113 件、このうち地域ブロック別ニューオフィス奨励賞（中部ニューオフィス奨励賞）の 1 社に当社が選ばれました。

オフィスのキーコンセプトは「現場と経営の一体」です。当社は本年 3 月に営業部門と一部機能を除き、本社機能を東京都中央区銀座から、創業の地である富山県高岡市に移転しております。紙の製造現場である高岡工場と本社機能を効率的に統合していくうえで、皆が集い、対話することで社員力・組織力をアップさせるオフィスを目指しました。

そのなかでもアットホームな中パ文化の継承として「社員全員が家族のように住まうオフィス」を検討し、ひと（家族）・もの・情報が集まる「創造的な住まい」として LIVING（リビング） & DINING（ダイニング）という場を設けました。社屋を家と捉え、2 階が家の中心となるコミュニケーションゾーンと意味づけております。

また、機密管理に関するセキュリティ体制の充実にも力を入れるとともに、他社の先端オフィス事例や、当社の取り組んでおります 6S 改善活動を FM（ファシリティーマネジメント）のベースとして、レイアウトにも反映させております。

この度の受賞を関係者一同光栄に思うと同時に、高岡の、このオフィスからさらに当社の企業価値を高めるべく努力してまいりますので、格別のご理解と一層のご支援を賜われますようお願い申し上げます。

以 上

新社屋のキーコンセプト「現場と経営の一体」

課題



2007年10月 社長のなぜ？から直轄のプロジェクトがスタート
 ・社員一人一人のポテンシャルは高いのに、なぜ？新しいものづくりが出来ないのか？
 ・熱い思いをそれぞれが持っているのに、なぜ？語り合わないのか？



・現場を知らない！
 ・経営を知らない！
 ・技術を知らない！
 ・客を知らない！

言いたいことがあっても言い合わない



一体

変革

2009年3月 本社機能を高岡に統合移転
集い対話する ことで社員力、組織力をアップさせる



「学びと実践の高速回転」
 「全ては対話から始まる」
 「創業の地から再スタート」

①集い対話する

互いを知り、誰もが経営者視点で熱く語る

②気付く

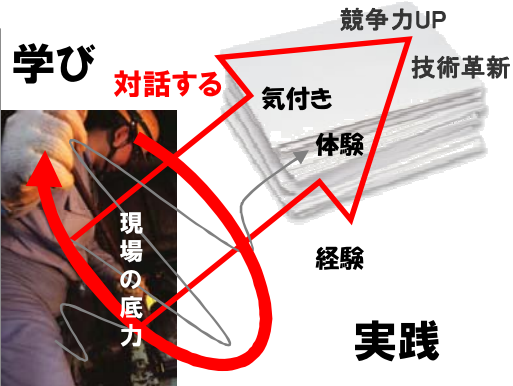
真剣な議論の積み重ねの先に気付きがある

③体験する

考えてばかりではダメ！失敗を恐れずチャレンジ

④経験する

成功も失敗も全員の貴重な財産



中パ文化の継承 「社員全員が家族のように住まうオフィス」

共生



厳しい経営環境にあっても「ひと・もの・こころを大切に」を合言葉に守りつづけた中パの文化がある。新オフィスは変革の拠点でもあるが今まで根付いてきた良質の文化については、伝承すべく検討した。

新本社オフィスへ紡ぐ中パ文化の原点は旧オフィスにあった！



お迎えする



立って決める



節約(節電)



オープンな役員室

お客様を社員全員が笑顔で迎える「いらっしやいませ」「ありがとうございました」

事が起これば全員で問題に立ち向かう。短時間、完結型 積み重ね。こまめにコツコツ、の立ち会議は現場ならではのスタイル

節約のコツは小さなトライの積み重ね。こまめにコツコツ、必要に応じて電気をON/OFFのスタイル

ひと(家族)・もの・情報が集まる「創造的な住まい」

リビング & DINING

社員が自発的に集い、知識の交換、共有、創造を行う。業務のための空間以上の場としてリビング、ダイニング、ホームベースとして意味づけた。2階が家の中心となり1階から2階へ、3階から2階へひと・もの・情報がここに集中する。狙いとして、一人ひとりが主体的に人的ネットワークを形成しながら協業して、知識資産を形にする。また、この行為自体が当社独自の知識創造プロセスの型として定着するよう個々が考える空間とした。



人を知る
仕事を知る

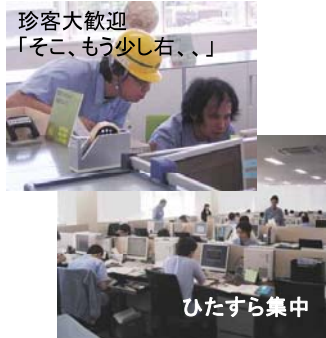
- ・ふらっと立ち寄った人から、ひらめきにつながる話が聞ける
- ・気軽に初対面の人と話が出来、顔見知りになれる

雑誌や書籍があり、お茶を飲みながら調べものをしたりする。社長のお勧め本があつたりする



ホームベース

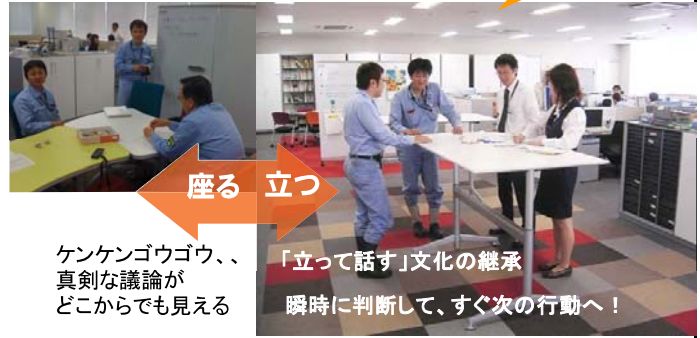
活動の拠点



リビング

誰もが集まるオープンな多目的スペース

真剣な議論
が見える



「集い、対話する」 ‘場’ を効果的に支援

現場とオフィスをダイレクトにつなぐPHS電話

342,485㎡の広大な生産現場とオフィスをダイレクトにつなぐツールとしてPHS電話を導入した。現場でおこる様々な問題に対し、オフィス内の技術指導者がタイムリーに指示を出すなどの対応が可能となった。



組織の流動化に対応するIP電話

今後、予測される組織の流動化に対し新しいオフィスはユニバーサルプランを採用した。これに伴い全ての電話をIP化することで組織変更や人員の増減に柔軟かつ迅速に対応することが可能となった。



プロジェクターで情報共有・発信

「百聞は一見にしかず」現場での起こった問題を的確に伝えあう有効な手段としてプロジェクターを活用している。



ネットワークサーバーは外部へ委託

近年の起こった中越沖地震等の災害などからリスクを回避する、BCPの観点からネットワークサーバーは今回、強固なセキュリティ環境が整った外部パートナーへ委託した。



「対話」を阻害しないセキュリティ計画

お客様や技術パートナー企業の方には、今まで以上に新オフィスにお越しいただきたい。ただし経営情報や技術情報、個人情報などもしっかりと守る必要がある。相反する要求に対し、「誰が、いつ、どこまで」のセキュリティゾーニングを整理しICカードによる時間と区画の入退室管理を行っている。



昼間はWelcome



夜間はしっかり守る



ICカードでのセキュリティは以下の3点
①入退室管理 ②勤務記録
③フロア毎の防犯セキュリティキー

- ・セキュリティゾーニング: オレンジ色部分について昼間は開放
 - ・リビング、ダイニング部分は社員同伴であれば可
- ※情報を外部に持ち出さない運用ルール



紙を通じた環境活動

全国の割り箸を回収して紙にしています(割り箸回収サポ)

全国より、お送りいただいた使用済みの割り箸を資源として紙に仕立てる取組みを行っている。資源の再利用とともにゴミを減らすことにも役立っている。

社内で紙は捨てません

社内で使用したコピー用紙も貴重な資源として再利用



割り箸
コピー用紙



再利用



紙へ

ワーカーの環境意識を高める間伐材家具を採用



FSC森林認証の材を使用



ちぎり加工(お客様とのちぎりの意を込めて)

地域と共にいきる中パだから。共に取り組む社会貢献活動

花を打つ:協賛する

市や自治会の祭事に積極的に参加している。新社屋の竣工も地の獅子舞で祝っていただいた。



春祭りで「花を打ちました!」



石引き祭りで学生さんとヨイショ!

地域住民といっしょに清掃活動

米島地区クリーン作戦:早朝7時より40名が参加、自治会の方々と心地よい汗を流す
堀さらい: 滞留した泥やゴミが溜まった周辺の用水路を地域の方々と一緒になってさう(掃除する)

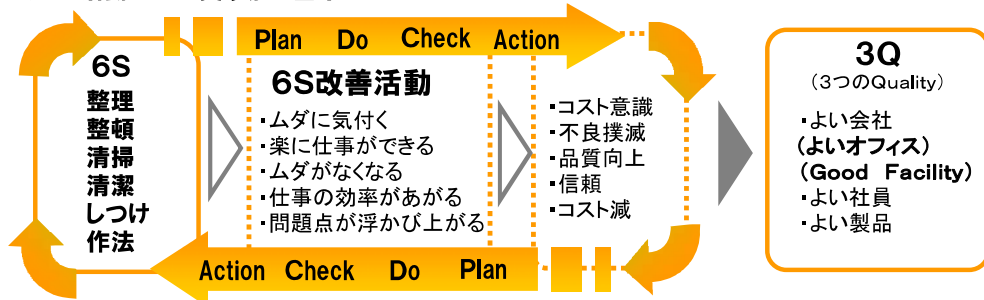


雨天決行



社内に根付いた「6S改善活動」がFMのベース

1. 社内に根付いた6S改善活動をベースに、負荷なく続けられる仕組みづくりを行った
2. 6S活動には全員参加を基本とした

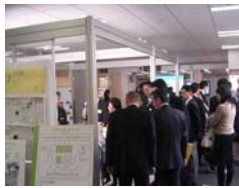


3. より良い環境づくりのための教育、情報収集、啓蒙活動を実施

外部講師による社内講演会

「イキイキ職場で仕事がしたい！」

先端オフィスを見学



FM手法を効果的に採用

組織の柔軟性を高める為にユニバーサルプランを採用

レイアウトシュミレーションを重ねベストグリッド、ベストデスクモジュールを算出した

